広告協賛 2017 (社福法) 特養 アコモード (株) いしど画材 伊集院写真事務所 (株) 板垣工業 (株) 板橋建設 (有) 今井観光 岩見印刷 株式会社 (株) エーヴィスシステムズ (有) 及川真咲デザイン事務所 (株) 春日や CAFE DOCK (株) 京北スーパー 香栄堂印房 プリントショップ コウエツ 後藤歯科 (株)コトブキ コ・ビアン コンビエンスさいとうギャラリー 作庭舎 すずきこどもクリニック 鈴城産業株式会社 割烹 鈴木屋 柏 studio.WUU 住吉整形外科クリニック 創造会メディカルプラザ 染谷正弘(DSA 住環境研究室) たちばな接骨院 田中工業 株式会社 千葉美術予備校 (有) 中央電器 (株) ティホーム てがぬまかっぱ村 酒乃なべだな ほぐし処 ねこや 根本米店 野島工業株式会社 ピアノ専門工房 ピアピット ビジネス旅館 布佐 (有) 布佐自動車鈑金工業

布佐台幼稚園

布佐宝保育園

平和台歯科 ペットハウス プルート ポニークリーニング布佐店

松島薬局 らーめん 豆でっぽう

mamenowa (株) 宮内建材 (株) 宮田工務店 (有) 山新豆腐店 ゆうかり絵画工房 レモン画翌 わだ幼稚園

ボランティア

岡 規子 北川 三夫 きよはら あき 倉持 充 佐藤 満 篠崎 清次 菅野 哲哉 大中 遼太郎 徳永 千春 根本 きく江 濱 理恵 樋野 理香 藤井 鈴江 藤田未希 艗 康彦 堀江 妙子 三村 由美子 山口 久子 山西 裕子 吉岡 恵美 吉田龍

スペシャルサンクス 2017

石井英朗 かつしか動物公園 加藤ひろえ 坂入ヤスヒロ 阪本テツ 庄田次郎 水田宗翠 Soluna 大樹 玉造下座保存会 デュオ パラム Naoto Vava ひだまなぶ Fukuko Ando BUTOH-ha Zero ↗

実行委員会

代表

江上 弘

実行委員長

鈴木 雅

事務局長

駒場拓也

会計 酒井翔馬、鈴木奈津子

石川美穂子 稲津あや子 おいかわみちよし 門倉光正 小山和則 島田忠幸 水田芳里 鈴木涼太 関谷聡太 戸祭瑞香子 野村正義 峯岸幹男 三村正弘 吉藤敏男

足立俊領 土井紀弘 羽二生隆宏

会計監査 富山英典

我孫子野外美術展実行委員会

我孫子市教育委員会 我孫子野外美術協会

我孫子市・千葉県



及川真咲デザイン事務所 我孫子市国際交流協会 キングフィッシャーガーデン

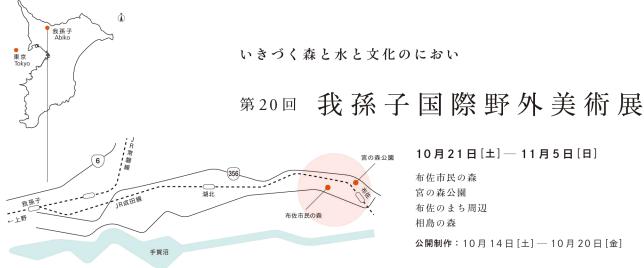
発 行 我孫子野外美術展実行委員会 〒270-1105 我孫子市三河屋新田8 http://abikoe.com aioe@live.jp

写真撮影 齋藤さだむ、高橋良輔、他 翻 訳 西沢三紀、菅野哲哉 デザイン 及川真咲デザイン事務所 印 刷 株式会社エーヴィスシステムズ

> Abiko International Open-Air Art Exhibition







10月21日[土] — 11月5日[日]

布佐市民の森 宮の森公園 布佐のまち周辺 相島の森

公開制作: 10月14日[土] — 10月20日[金]

ご挨拶

記念すべき第20回の節目を迎えた我孫子国際野外美術展が今年 も、日本をはじめ、インド・フランス・モンゴル・イタリア・ハンガリー・ 中国など世界各国から多数のアーティストにご参加をいただき、「布 佐市民の森」や「宮の森公園」など布佐地域を中心に盛大に開催さ れましたこと、地元市長として大変嬉しく思っております。

言葉や文化も異なる様々な国のアーティストが布佐のまちに集結 し、我孫子の豊かな自然と街並みに触れながら創作活動を展開され、 多くの作品と素晴らしい交流が生まれました。

また、我孫子国際野外美術展を通して、多様な文化が融合し、こ の「物語の生まれるまち我孫子」から芸術や文化を国内外に発信す る機会となりましたことは、とても意義深いものであると感じたと ころです。

我孫子市はこれからも、我孫子らしさを活かし、活力あるまちづ くりに取り組むとともに、多くの市民が芸術や文化の素晴らしさを 体感し、文化活動を楽しむことのできるまちを目指してまいります ので、引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。

結びに、開催に向けてご尽力いただいた実行委員会の皆様をはじ め、ご参加いただいたアーティスト、布佐地域の皆様方に心から感 謝を申し上げますとともに、我孫子国際野外美術展が30回、40回 と末永く続き、さらに発展されますことをご祈念申し上げ、あいさ つとさせていただきます。

我孫子市長 星野順一郎

Mayor's Greetings for the 2017 AIOE

As a mayor of Abiko, I am so pleased that the epoch-making 20th Abiko International Open-Air Art Exhibition had successfully been held this year, too being centered at Fusa area such as "Fusa Shimin no Mori" and "Miya no Mori Park" with kind attendance of many artists from all over Japan and abroad i.e., India, France, Mongolia, Italy, Hungary, China etc.

Many artists of various countries having each different language and culture gathered at the town of Fusa and performed their creative activities in the rich natural environment that the town of Fusa has to offer. They have created lots of works while exchanging their ideas each other.

I felt it very significant that this Abiko International Open-Air Exhibition has provided an opportunity where various cultures have been exchanged and also has accelerated to distribute the arts and cultures to in-outside Japan from "Abiko being a creator of the story".

From now on as well, I will continue to make our Abiko city more vital and attractive utilizing the Abiko's own character so that many citizens could feel how the arts and cultures are wonderful and also could enjoy the cultural activities accordingly. I do hope you will kindly continue to cooperate with us on this matter.

In conclusion, I would like to extend my warmest thanks to the working committee, the artists participated and to the people of Fusa area for their works. Also, I sincerely hope Abiko International Open- Air Art Exhibition will be continued and developed forever marking 30th, 40th and so on.

Mayor Junichiro Hoshino, Abiko City

我孫子国際野外美術展と布佐の20年

ニッセイ基礎研究所 塩澤誠一郎

初めて布佐を訪れたのは1998年の9月、ちょうど竹内神社例大祭 の日の夕刻だったと記憶している。我孫子市の峯岸幹男さんにクルマ で連れて行ってもらったのだが、布佐に入ると神酒所や山車が目に入 り、お祭り特有の活気がまちを包んでいた。それと共にどことなく凛 とした雰囲気を街並みに感じた。しばらくすると、周囲に比べひとき わ大きい屋根の建物が見えてきた。あれが相島だという。

相島の雰囲気にも圧倒されたが、しばらくして現れた江上さんの姿 にも驚いた。全身真っ白!お神輿を担いでいたところを抜けて来てく れたのだ。土間に置かれた大きなテーブルの一角に座り、ほの暗い空 間の中、渡御の興奮をそのままに少し額に汗をにじませた白装束の男 性が、野外美術展を開催するに至った思いを語り始めた。これが江上 弘さんとの最初の出会いである。

筆者は、それまでいくつかの自治体、地域でまちづくりに関する計 画策定にコンサルタントとして携わってきた。そして我孫子市の総合 計画を手掛けることになった時には、計画策定という行為に限界を感 じるようになっていた。

80年代後半から90年代にかけて、住民参加のまちづくりが各地で 取り組まれるようになり、都市計画マスタープランといった行政計画 の策定にワークショップ方式が導入されていった。行政があらかじめ 素案を用意せず、白紙の状態から住民の意見を吸い上げ、まちづくり の案を組み立てていくことを経験した。数十回に及ぶワークショップ

Twenty Years of Abiko International Open-Air Exhibition and Fusa

Seiichiro Shiozawa NLI Research Institute

I visited Fusa for the first time in September 1998. It was the evening of the Takeuchi Shrine annual festival. Mr. Mikio Minegishi of Abiko city office drove me there. When entering Fusa, I saw "miki-sho" (a station where the sacred sake is dedicated to god) and a float, and the liveliness peculiar to the festival enveloped the whole town. At the same time, somehow I felt a dignified atmosphere in the townscape. After a while, a building with a roof much larger than the surroundings was visible. That was Aijima.

I was overwhelmed by the atmosphere of Aijima and also surprised at the appearance of Mr. Egami who showed up after a while. He was dressed all in white! He left a parade of a portable shrine that people were carrying in order to see me. He was still excited about the transferral of the shrine and perspiring on his forehead. This man in white costume sitting in a corner of a big table placed on the ground in the dim space started to talk about his ideas for holding an open-air exhibition. It was my first encounter with Mr.

Until then, I had been involved as a consultant in community planning and town development in some local governments and districts. By the time I came to deal with the comprehensive plan for Abiko city, I was beginning to feel the limits to the act of planning.

From the late 1980s to the 1990s, resident-involved city planning was tackled in various regions. A workshop system was introduced to を経て、計画自体はよいものができ、参加住民も出し切った感が表情 に浮かんだ。しかし、まちづくりは計画を策定して終わりではない。策 定後計画の実現に向けて、具体的な行動が始まらなければ意味がない。

バブル経済がはじけ、阪神・淡路大震災を経験した後で、右肩上が りの経済成長を再び期待する状況ではなかった。国の将来人口推計も 計画期間中に減少に転ずるとしていた。既定路線の市街地整備や再開 発事業は推進するものの、むしろ成熟社会に向けて、すでに形成され た市街地内部の充実がうたわれるようになった。足元の住環境に眼を 向け、街並みを整え、地域の文化的価値を高めていく。そのような視 点が重視された。そこで重要になるのは住民自ら主体的に行動するこ とだ。だがそれは起こらなかった。ワークショップの熱気がまちづく りに向かうことはなかった。

我孫子市の総合計画策定でも、同様な方法を用いることになってい たことから、何とかしなければと考えていた。

ちょうどそのような時期に、各地で開催されたアートプロジェクト を紹介する書物を手にした。そこには、アートが地域の力を引き出し ていく様が描かれていた。プロジェクトに携わった住民が、自らのプ ロジェクトとして行動し、自分の暮らす地域を見つめなおすきっかけ になったと話す。これはまちづくりではないか?

アーティストはまちづくりをしようとは思っていない。自己の表現 を地域との関係の中で形にしようとしている。アーティストだから当 然だ。だが、結果的に住民に行動を促し、まちづくりと同じような効 果を及ぼしている。アートにはそのような力がある。

市役所で打ち合わせをしていたときに、何気なくそんな話をしたの だと思う。すると峯岸さんから、似たようなことが今年布佐で行われ ると聞く。実行委員長はよく知っている男だというではないか。会っ て話を聞きたい。峯岸さんにお願いして冒頭の機会が実現した。

アーティストは自己の表現を追求する人間だ。だから、アーティス トである江上さんが実行委員長と聞いたときに、失礼ながら単に表現 のフィールドをギャラリーではなく野外に求めたのだと勝手に想像し ていた。ところが、江上さんの動機はそれとは異なっていた。

「数年前にこっちに帰ってきてから、布佐の素晴らしい環境を再認識 するようになった。田んぼが広がって、昔遊んだ里山がまだ残っている。 岡田武松のレンガ造りの洋館が建っていて、反対側には元銀行だった 建物を利用した病院があった。かつて水運で栄えた時代の雰囲気が残っ ていて、文化の拠点にできたらいいなと考えていた。だけどある日壊 されてしまった。それがショックでね。歴史的な建物はもう相島しか ない。それですぐはじめなければと思った」

動機はまちづくりそのもの。布佐のすばらしい環境を残したいとい う思いを、自分自身のアートという方法で取り組もうとしたのだ。こ の時点で筆者もプロジェクトにかかわることを決めた。アートは好き だし、まちづくりは自分の仕事だ。応援しない理由がなかった。

江上さんは相島で工房を開いていた井上千鶴子さんに思いを伝え. 相島を残したいとの思いが同じであることを確認した。相島の森を会 場にすること、工房を会期中の拠点にすることが決まった。もともと まちづくりに取り組もうとしていた地域の人たちの賛同も得た。こう してそれから20年続く野外美術展が始まった。筆者も翌月の公開制作 から準備を手伝い、第1回の開催に立ち会うことができた。

参加アーティストがそれぞれの方法で森に向き合う様子を間近に見 ることができたのは、よい経験になった。実行委員会に参加した地域 の人たちは、スタッフの仕事をしながらも、それぞれにこのプロジェ クトを楽しんでいるように見えた。作品を作り始める方も出てきた。

レクチャーハイキングに参加した年輩の方が、竹林で作品を制作し た外国人アーティストに、熱心に質問していたのが印象に残っている。 「日本人の感覚ではこういう表現はしない。どこからこの発想が出てく るのか興味深い」と話していた。アーティストが布佐の環境に向き合 い作品をつくり、地域の人が作品に向き合うことで、文化や環境を洞 察する。こうした経験が毎年地域に蓄積されていく。

この後、総合計画の策定に、地域住民が主体となって何らかのまち づくりにつながる活動を立ち上げるプロセスを導入することにした。 翌年の地区別会議で実践し、住民と市の職員が同じテーブルで議論す る中からいくつかのプロジェクトが生まれた。

作品作りから公開する。会期が終了したら作品はすべて撤去して元 通りにする。海外からアーティストを招待し布佐に滞在してもらう。 市民オーナープロジェクト。これらは20年間変わらず実施してきた野 外美術展の特徴と言える。

作品作りから公開するのは、そこを訪れた人との交流を期待してい るからだ。アーティストと森を訪れた人とのコミュニケーションが作 品作りにいい影響を与え、訪れた人も普段地域で出会わない人との交 流を楽しむ。実際に公開制作期間を楽しみにしている人もいるのでは

作品を残さないのは、作品があるときに向き合ってほしいという思 いがあるからだ。環境への思いにつながる。森や建物は日常の風景と していつでもそこにあり、普段それに向き合うことはしない。だから 開発されたときに突然無くなってしまったと感じる。布佐の環境もそ

formulate administrative plans such as an urban planning master plan. In workshops, the local administration did not prepare drafts beforehand. gathered residents' opinions, and built plans for community development from scratch. After dozens of workshops, we came up with good plans and the participating residents appeared to be fully satisfied with the results. Community development is not over with making plans, however. After the formulation, it is meaningless unless concrete actions are taken to realize

After the bubble economy burst, we experienced the Hanshin-Awaji Earthquake disaster. Therefore, we were not in a situation to expect economic growth to rise sharply again. It was said during the planning period that the future population estimate of the country would turn to decrease. While promoting urban district development and redevelopment projects along the existing policy, rather, the fulfillment of the already built urban areas began to be clearly stated for the mature society. Taking a look at the housing environment nearby, straightening up the cityscape, and increasing the cultural value of the area—such a viewpoint was emphasized. So it was essential for residents themselves to take initiative, but it did not happen. The enthusiasm in the workshops never headed toward town development.

As the same method was supposed to be used in Abiko city's comprehensive plan formulation, we thought we had to do something. Around that time, I got a book introducing art projects held in many different places. It depicted how art was bringing out the power of each district. Citizens who were involved talked about how they acted in the project as their own and commented that the event provided them with an opportunity to look back on their community. Isn't this a town development?

Artists are not aiming for town planning. They are trying to shape their expressions in their relationships with the community. That sounds natural because they are artists. However, as a result, they are urging local residents to act and produce the same effects as town development. Art has that kind of power.

When I had a meeting at the city office, I probably talked about that. Then Mr. Minegishi said that something similar was being planned in Fusa that year. And he added that he knew the chairman of the executive committee very well. I told Mr. Minegishi that I wanted to talk with him, and the opportunity to meet him was realized as I mentioned at the beginning.

Artists are people who pursue expressions of their own. When I heard that the chairman was an artist, Mr. Egami, I imagined, forgive me for saying so, that it was merely to make the field of expression not in the gallery but outdoors. Mr. Egami's motive, however, was different from that.

"Since I came back here several years ago. I realized again the wonderful environment of Fusa," said Mr. Egami. "Rice fields spread out and the hills and fields where I played in the past still remained. The Western-style brick residence of Takematsu Okada was there and on the other side was a hospital in a building that was a former bank. The atmosphere of the town that flourished with water transport still remained, and I thought it would be great if this place could be a cultural base. One day, however, they were torn down and I was shocked. There only remained Aijima as a historical building. So I thought I had to start right away."

His motive was town development itself. He tried to realize his wish to preserve Fusa's wonderful environment by means of art. At this point, I decided to get involved in this project. I like art, and town development is my job. There was no reason for me not supporting it.

Mr. Egami conveyed his ideas to preserve Aijima to Ms. Chizuko Inoue, who had a studio at Aijima, and confirmed that they shared the same wish. It was decided to make the woods of Aijima the venue for the project and to make the studio the base during the exhibition. They gained approval from local people who wanted to get involved in town development from the beginning. Thus the outdoor exhibition that lasted for the following twenty years started. I myself helped making preparations for the open production that started in the following month, and I was able to attend the opening of the first exhibition.

It was a good experience that I was able to see participating artists close at hand who were facing the woods in their own ways. People in the area who participated in the executive committee seemed to be enjoying this project respectively while working as staff. Some of them started to make

It was impressive that an elderly person who participated in a lecture hiking enthusiastically asked questions of a foreign artist who made a work in the bamboo grove. "Japanese don't express like this in terms of an aesthetic sense. It's interesting to know where this approach comes from," said he. Artists deal with the environment of Fusa to create works, and local people gain some insight into the culture and environments by facing these

れがあるときから向き合ってほしい。

海外招待アーティストは20年間で111人。平均して毎年5~6人が布佐に滞在した。共同生活しながらアーティスト同士、あるいはボランティアスタッフと交流し、相互理解を育む。アートキャンプスタイルのもっとも意義深いところだ。毎年、見慣れない外国人アーティストが布佐のまちを訪れることは、地域にとってもよい刺激になる。(図表1、2参昭)

市民オーナープロジェクトは、アーティストと市民が一緒につくる 美術展という理念を体現するものだ。美術展に共感する人は誰でも一口2,000円のチケットを購入することで、美術展のオーナーになる。オーナーになって美術展そのものを支えてもらう。そこには、市民自ら文化を育む担い手になってほしいとの思いがある。20年間で市民オーナー数は延べ4,586人に及ぶ。運営上も市民オーナープロジェクトの収益は重要な位置を占めてきた(図表3参照)。

江上さんは当初から10年は続けると話していた。それがその倍の年数続いた。20回目の会期を終えて、久しぶりにじっくり話を伺った。

秋になるとまた始まるねと地域の人が声を掛けてくれる。茶飲み話の中で作品のことが話題になる。野外美術展は20年で地域にすっかり根付いた。

相島は2012年に、旧井上家住宅として市指定文化財に指定され、市の保有となって恒久的に保存されることになった。当初の思いが一つ形になった。

今回、実行委員長を務めた鈴木雅さんは、小学生の時にレクチャーハイキングに参加して、それ以来毎年会場を訪れるようになり、やがて作品作りを行うようになって、ついに実行委員長になった。美術展と共に地域で育った子が担い手になるまでに成長した。20年継続するということは、次世代を育むことなのだ。

20回目の野外美術展を訪れて感じたのは、布佐の様子は20年前とそんなに変わっていないということだった。森は守られ、田は稲穂を実らせていた。森と水と文化のにおいは確実にこの地にいきづいている。

ただ、江上さんに言わせると、今はまちが寂れているという。森を残したいとの思いでやってきたが、その間に商店が減って空き地が増えた。

20年前に策定に着手した我孫子市の総合計画基本構想は、3年後の2021年に目標年次を迎える。構想に示した「緑があふれ、祭りに人が集う東の玄関口」という布佐の将来像を再び見つめ直す中で、布佐の人たちは、新たな課題にどのように向き合っていくのだろうか。野外美術展の今後の歩みとともに、気になっているのである。

アーティスト数推移 Change in the number of artists



ボランティア数推移 Change in the number of volunteers



市民オーナー数推移 Change in the number of citizen owners



works. These experiences accumulate in the district every year.

After that, it was decided that mainly local residents would introduce a process to launch activities leading to town planning in setting up a comprehensive plan. At the district conference the following year, the new process was implemented and several projects resulted from discussions between residents and the city staff.

The features of the outdoor art exhibition that have been realized without changing for twenty years are: making work production open to the public, removing all works and restoring everything as it was, inviting artists from overseas to stay in Fusa, and the citizen-owner project.

The reason for making work production open to the public is to expect communication with people visiting there. Communications between artists and people who visit the woods exert a positive influence on works, while visitors enjoy interactions with people who they do not usually meet in the area. I'm sure that there are people who are looking forward to this open production period.

The reason for removing all works from the exhibition site when the exhibition is over is that visitors are expected to see the works in full appreciation during the exhibition period. It is related to the environmental ideas. Woods and buildings are always there as everyday landscape, and people usually do not pay attention to them. When they are torn and developed, people feel that they are gone suddenly. I want people to be aware of the environments of Fusa when they still exist there.

There have been 111 overseas artists invited in 20 years. On the average, five to six artists stayed in Fusa every year. While living together, they interact with each other and volunteer staff to foster mutual understanding. This is the most meaningful part of the art camp style. Unfamiliar foreign artists visiting Fusa city every year has been a good stimulation for the city. (See fig. 1 and 2.)

The citizen owner project embodies the idea of an art exhibition that artists and citizens put together. Anyone who agrees with the idea of this art exhibition can become the owner of the exhibition by buying a ticket of a share of \2,000. People who become owners support the exhibition. There is a hope that citizens themselves would be supporters to promote cultures. In 20 years, the number of citizen owners has reached 4,586 in total. In the operation, the revenue of the citizen owner project occupies an important position. (See fig. 3.)

Mr. Egami said that he would continue it for 10 years from the beginning. In fact, it lasted 20 years, twice as many years. After finishing the 20th exhibition, I talked with him for the first time in a long time.

Every autumn, local residents tell him that it will start again. During their chat over a cup of tea, they talk about the works. In the last 20 years, the outdoor exhibition has totally rooted in the area.

In 2012, Aijima became a city-designated cultural asset as the former residence of the Inoue family, and is preserved permanently as the city's possessions. One of the original desires was given form.

Mr. Masashi Suzuki, who served as executive chairman for the 20th exhibition, participated in the lecture hiking when he was in elementary school, started to visit the exhibition site every year, and eventually began to make works himself, and finally became the chairman. A child who grew up in the area along with the art exhibition has become a person in charge. To continue for 20 years means to nurture the next generation.

When visiting the 20th outdoor exhibition, I felt that Fusa had not changed so much from 20 years ago. The woods was preserved and the rice fields produced ears of rice. Smells of the woods, water and culture are certainly alive on this land.

According to Mr. Egami, however, this town is now declining. He has continued this project to preserve the woods, and meanwhile shops decreased and vacant lots increased.

The basic comprehensive plan for Abiko city that was first worked out 20 years ago will see its completion after 3 years, in 2021. While we review the future image of Fusa as "the eastern entrance where greenery overflows and people gather at the festival," which was included in the plan, I wonder how people of Fusa will face new challenges. I am curious about that along with the future development of the outdoor exhibition.

石坂孝雄

Takao Ishizaka (日本)

田んぼの学校 一バッタ先生と案山子の子供たち一

Rice Paddy School -Grasshopper teacher and Scarecrow children

この広大な田んぼの風景は圧巻だ。 この風景の中に、私は大きなバッタと 案山子たちを出現させようと思った。 これは、バッタの先生が案山子の子 供たちを引率する様子である。案山 子の配置は、田んぼの傍の道に続く 電信柱に想を得た。

バッタの先生は、案山子の子供たち に何を教え、何処に導こうとしている のだろうか。

素材:木材、木の枝、T シャツ 場所:旧井上家住宅前の田圃



マスト

Masto (フランス)

真実の迷路

Labyrinth of Fidelity

我孫子では、いつも道に迷ってしまった。 私たちはそうすることによって多くの場所を見てきました。 これは素晴らしい経験でした。 私たちは自分自身を見つけるために迷路を作りました。 フィデリティの迷路はこの話を私たちに伝えます。近くの学校の子供たちがすべてそれを訪問し、迷路の中心に隠されている鏡で会うことを願っています。迷路はまた、自分自身に誠実でなければならないと言っている。これは Uta Heinecke とジョイント・プロジェクトです。

In Abiko, we always got lost. We have seen manyplaces by doing so. This was a nice experience. Laterwe built the labyrinth to find ourselves. The Labyrinth of Fidelity tells us this story.

We hope, that all children of the schools nearbywill visit it and meet themselves in the mirror which is hidden in the centre. The labyrinth also wants to say, that you should beloyal to yourself.

This is a common project with Uta Heinecke.

素材:竹、果物、花、鏡 場所:宮の森公園









TROPICAL TREE ENSEMBLE

レオ・ペレガッタ Leo Pellegatta ニコラ・ラフレリー Nicolas Laferrerie

白石雪妃 Setsuhi Shiraishi 山軒直人 Naoto Yamagishi な紡 Natsu (イタリア / フランス / 日本)

軌跡

Imprints

日の軌跡 音の残響

空の言葉

私は円を描く

The imprint of light.
The echo of sounds.
Words from the welkin.
We are drawing ripples on the ground.

素材:ミクストメディア 場所:布佐市民の森

クライディ・ディメロ Clyde D' Mello (インド)

カルミナ・ブラーナ おお、運命の女神よ

Carmin Baruna o Fortuna

13世紀にヨーロッパで書かれた詩です。私たちはすべて運命の手中にあります。(女神 -Fortuna {fortune}) は私たちに物を与え、物を奪い、数秒で私たちの人生を短くすることができます。満ち欠けする月は、私たちが生き永らえることを祈る女神の象徴です。

A Poem from 13-century Europe. We are all in the hands of fate it (the goddess -Fortuna {fortune}) gives us things and takes awaythings and can cut short our life in a matter of seconds. The moon symbolizes here the goddess as itwaxes and wanes that we pray to live another day.

素材: 画用紙、アクリル、サインペン 場所: 布佐図書館

死は畏怖への道

(ダーレン・アロノフスキー、ファウンテン)

Death is a road to awe (from Daren Aronofsky - The fountain)

人生を理解するためには、死ぬことが必要です。死のみによって私たちは人生が何かを理解することができます。 この作品は、最近亡くなった私の祖母に捧げられています。

To understand the entirety of life one has to die. Onlyin death can we understand what is life. This work is dedicated to my grandmother who recently passed away.

素材:紙、アクリル 場所:布佐図書館

シャオ・リー

Xiao Li (中国 / 日本)

水に任せて

Leave it up to the water

我孫子市の手賀川リバーサイドに生えていた葦を大量に使って、宮の森公園にある神秘的な池で浮かばせます。なるべく加工しないことで、我孫子にしかない素材を最大限に作品に生かしたいと思っています。水の動き、風の向き、光の映りなど自然の要素によって作品を完成させていく、自然とのコラボレーションです。

I have used a large amount of reed which Iharvested in Abiko city's Taga riverside and floated iton the mysterious pond in Miyano Forest Park. I triedas much as possible to utilize the materials availableonly in Abiko and kept them close to their naturalform without processing, The work will be completed by the natural elements such as movement of water, direction of the wind and reflection of light. It is a collaboration with nature.

素材:葦、紐 場所:宮の森公園



オドゥマ・ウランチメィク

Odmaa Uranchimeg (モンゴル)

動きはそれ自体が平衡状態にある

The movement is itself in equilibrium

人々は遊ぶ時、貪欲の不快感や負の 傾向から解放されます。私は 人々に この自由を長く維持してほしいと思い ます。

人々は、愛と祝福のために神に祈る 様に、遊ぶことで自分自身を救う時間 が必要です。

遊びましょう、そして私たち自身を愛 しましょう。 People are free from greed discomfort, and negativetendencies when they play. I want people to maintainthis freedom for a long time. People must have a timeto play and help themselves as they pray to God forlove and blessing. Let's play, let us love.

素材:石膏、針金、木材、木の葉 場所:浅間神社







本多真理子

Mariko Honda (日本)

Rice Fields Forever

'04年の我孫子野外美術展では私は布 佐の豊穣の形を籾殻のたわみで表し、 籾殻の中身の新米 (コシヒカリ)を食 するまでを作品としました。そのお にぎりのなんと甘くおいしかったこと か!

今回は稲穂を刈った後に残る株で サークルを作りました。稲を育む土を 眺めるように。そして来期も営まれる といいなと思いながら。

素材:稲の切り株 場所:美術展本部前の田園

広田美穂

Miho Hirota (日本)

緑塀出現

green wall appeared

布佐に電車で向う時、車窓から緑の 塀が見えるとワクワクしていた。通 り過ぎる一瞬、植栽の穴の様な隙間 に目をこらし、風景を確かめるように 乗っていたのだ。

今回、そんな緑の塀を、布佐の駅に登場させたいと思った。

素材:ビニールシート、アクリル 場所:布佐駅構内



津田大介

Daisuke Tsuda (日本)

"Now!?"

私が今ということを考えると、あらゆることが逆風の世界に感じることが多いように思える。それが時代の為なのか、そういう世代なのか、時勢なのかは分からないが、なかなか生きていくのは、不安や葛藤、苛立ちが絶えない。そんな逆風の世界を生きる為に、己を奮い立たすように咆哮する!!!

素材:木材、顔料、鉄板 場所:キングフィッシャーガーデン





ウタ・ハイネケ

Uta Heinecke (ドイツ / ハンガリー)

新幹線を待つ

Waiting for the Shinkansen

我孫子に来る前に、私たちは新幹線 で日本を旅しました。我孫子で私た ちは速い電車が恋しくなりました。そ れで我孫子野外美術展の新幹線の駅 を作りたいと思いました。

二つの椅子は新幹線を待っていますが、新幹線は絶対に来ません…。

これはMastoとのジョイント・プロ ジェクトです。

After travelling through Japan by Shinkansen wemissed the fast trains in Abiko, so we wanted to build our AIOE Shinkansen station.

Two chairs are waiting for the Shinkansen, whichnever arrives…

This is a common project with Masto.

素材:竹、紐 場所:宮の森公園





Tomoe Whollys

宙(そら)の耳

Circles in a murmur

私たちの体、土地、樹木、流れる川 の水、すでに存在して見えているもの、 あるいはこれから現れるであろうまだ 見えていないもの、聞こえないもの、 全てのものには固有の振動数があり ます。この世界は振動、音、音楽に 満ちていて、互いに響き合い調和し て、単独ではなかった新しい音楽も 奏でているのかなと想像します。

素材:鉄、石膏 場所:宮の森公園



クラリネットワークス

KLARINETTEWORKS (日本)

ESTRK CONOMI

舟山大佑 (左官)Daisuke Funayama (Plaster)風間正人 (大工)Masato Kazama (Carpenter)

完全メノウでウテナできます

We can "Utena" with "perfect agate"

普段、お客様の注文ありきの仕事内容 である職人達が、自分たちの発想と技 術を駆使して、日常ではあり得ない 造形を生み出し、アートとして作品を 発表します。

海外から多くの参加者のある美術展で世界からも注目の高い「日本の職人技術」を通して海外アーティストと交流すると共に、制作者たちの住む街、船橋市、白井市と我孫子市の街の人々をつなぐキッカケとして発表・発信できたらいいなという想いで立ち上がったプロジェクトです。

素材:塗料、セメント、漆喰 場所:旧バイク屋

古屋崇久

aaaaaaaaaaaa (日本)

東京 - 我孫子間ウルトラハイパー列車計画

Ultra Hyper Train Plan between TOKYO and ABIKO

ここ布佐周辺は、開発に裏切り続け られた土地なのかもしれない。ニュー タウンとして開発された布佐駅周辺 は、成田線の複線化計画を元に東京 都心へ働く人のベットタウンとして開 発されたが、1996年から推し進めら れた成田線複線計画は今もなお停滞 し未だ単線のままである。さらに時代 を遡れば、1960年に立ち上がった手 賀沼ディズニーランド計画があった。 この開発は東京オリンピック誘致に 失敗した我孫子市が手賀沼に一大観 光地を開発する計画であったが、起 工式までしておきながらも頓挫し、計 画の中止から15年後、浦安市に東京 ディズニーランドが完成した。また、 手賀沼終末処理場は建設前から環境 の変化や匂い等の問題を孕み、最近 では放射性物質を含んだ焼却灰問題 も起こった。

今回、土手に掲げた「ウルトラハイ パー列車計画」とは、2013年にアメ リカで発表されたリニアモータカーを 超える新たな交通手段「ハイパールー プ」を元にした架空の交通インフラ テクノロジーである。ここ日本では 存知の通り東京-大阪間にリニアモー ターカーを走らせる「中央新幹線構 想」が1973年に基本計画が決定され 現在も開発が続いていて、2037年に 全線開通予定らしい。およそ半世紀 以上をかけて実現しようとしているこ の計画では、進路が決定するまでに 日本各地で多くの誘致合戦が起こり、 「早期実現」、「○○まで何分」等未来 が描かれた看板があちこちに設置さ れたと同時に環境悪化を懸念する団 体による反対運動も活発に起こった。 なぜ、ここにウルトラハイパー列車な のか。それは、2009年に神奈川県が



発表した東京と成田空港・羽田空港 を結ぶリニア計画を元に、現在にお いて最新のインフラ技術であるウルト ラハイパー列車の試験的運用が行わ れる可能性は今後十分にありえる話 なのかもしれないと思いこのような計 画を掲げた。速さと利便性を求めた 交通インフラの開発は、ことごとく自 然を破壊し、人の流れを変えてきた。 技術の進化によって生活は変わって いくが、人の心情というものはあなが ち変わるものでも無いだろう。そこに 元々あったものが無くなることは、取 り返しのつかない参事にもつながり、 現代における地方都市の同景化、駅 舎の同一化にみられる地域的アイデ ンティティの消滅にもつながっていく のではないか。開発に裏切られ続け られたこの辺りではあるが、悠久の昔 から残る雑木林や建造物が今もなお 残されているのは不幸中の幸いなの かもしれない。

この作品は土手に展示する予定だった。しかし、「10月20日金曜日」開催の前日に国土交通省への苦情があり、撤去する次第となり、搬入してから僅か2日間での撤去となった。

苦情が出てしまった以上、これは架 空の計画への反対運動であり市民運 動でも何でもないので戦うことはでき ない。選挙期間に重なり、このような 「反対勢力的看板」にシビアになって いたのか、近付く大型台風21号によ る物的被害を恐れたのか、開発に尽 く裏切られ続けたこの土地は、架空 の「ウルトラハイパー列車計画」の 反対を許さなかったのか。結果的に、 今回の「ウルトラハイパー列車計画」 という架空の計画は、それすらも掲げ ることを許されず架空に終わってし まったことで、この土地の開発への関 心の高さ、危機管理能力を改めて実 感することができた。

土手から外されたこの看板はここに向かい合わせで設置した。表からは掲示内容が分からない新しいまっさらな看板として次の開発予定を孕んでいるが、内側に覗く過去の未来予想図は少しの人のみが存在を知る計画として闇の中に消えていき、塗り重ねられる開発に翻弄されるこの世界を批判している。

素材:ベニヤ、垂木、ペンキ 場所:美術展本部の駐車場と前の道路予定地









ひだえみこ Emiko Hida (日本)

Mother Earth

草・木・蔓 枯れて朽ちて やがて地となるこの世に生まれたものに 無駄なものは何ひとつない全ては母なる大地へ帰り 新しい命を生み出す。

素材:蔓 場所:布佐市民の森



長谷山顕子・絢子

Akiko · Junko Haseyama (日本)

還

Return

生前この地上にたくさんの種を蒔いた人の足跡には小さな花が咲きはじめ、生前の祈りは、いつそう強く大きくなり、空になって、わたしたちをその愛で包み、風にのせて、愛のことばを届けてくれる。からだを持たなくなった生命は、広大無辺の愛となり、わたしたちをやさしく見守ってくれている。ありがとう、こころからの感謝を込めて…。

素材:クリスタル、紙粘土、石、針金 場所:布佐下多目的広場



戸野倉あゆみ

Ayumi Tonokura (日本)

静物一サンセット・カクテル

Still Life - Sunset Cocktail

夕焼け時にお越しください。 太陽の実のカクテルが楽しめます。

素材:針金、毛糸 場所:旧井上家住宅前の田圃

王 暁鳴 ワン・シャオミン

Wang XiaoMing (中国 / 日本)

青竹

Blue Bamboo

竹と言えば、「清高」と「有節」と表現されるように、中国では古代から文人墨客の所好である。日本では、松竹梅など縁起物として人々の生活に馴染みが多い。

竹がしなやかでどんなものよりも強いのは竹の節が一つ一つ成長する上に、根が広く深く張っていくからである。 人生も同じように、沢山の試練、経験があって一つ一つの節目を超えていく度に根が強くなる。

素材:竹、番線、他 場所:宮の森公園







12



地震など自然災害・人類に起因する 温暖化・核への執着・テロ、自然破 壊は地球レベルで進行、生命多様性 回復に世界は心を繋ぐとき。

素材:パネル、アクリル 場所:旧石井ストア 2F



ヘレン・ウォルシュ

Helen Walsh (日本)

森の中の建築物

Arboreal Architecture

私は子供の頃から、地球上の昆虫・鳥・小さな動物たちが天然の材料で家を作る方法に魅了されてきました。彼らの絶妙な技量と家づくりのスキルによって私は色々なことを学び、結果的に私自身を謙虚にしてくれました。

From my childhood, I have been fascinated by how insects, birds and little animals culpt the earth we live in, and make it their home.

Their exquisite craftsmanship and house buildingskills, forever inform and humble me.

素材:棕櫚縄 場所:宮の森公園



加藤ひろえ

Hiroe Kato (日本)

花庵

flower hermitage

花を生けるということを見つめ直したいという思いから、古木で庵を作りました。

庵の中に、あるいは外に、または庵そ のものを器に、在廊出来る時は花を 生けております。

素材:古木、蔓、その他草花 場所:布佐市民の森

竹中知子

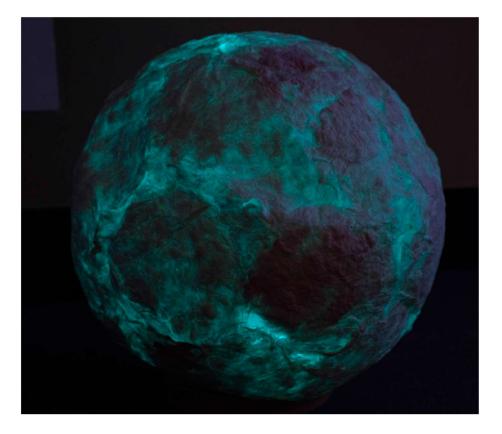
Tomoko Takenaka (日本)

唯一無二の地球

The one and only Earth

今地球がおびやかされている。地球 温暖化に核戦争と、たった一つしか ない地球を私達はどのように守って いけばいいのだろう?

素材:和紙、LED ライト 場所:布佐図書館







千葉工業大学遠藤政樹研究室

Masaki ENDOH laboratory of Chiba Institute Technology Department of Architecture

手繰り寄せる

Abicollection

私たちは幾重にも重なる物質が光や 影の密度を生み、空気の流れ、素材 感や質感、匂いなどあるがままの日常 を建築によって表現することができる なら、ぬくもりや人の心を和ませ、お おらかに優しく包み込むことができる のではないか。

素材:トイレットペーパー、紐 場所:旧石井ストアー

浅沼知明

Tomoaki Asanuma (日本)

星を見るための小屋

The Star Gazing Hut

小屋の中に寝そべって星を見るというコンセプトで制作しました。サイズ はふたりが入れるとても小じんまりと したものです。

忙しくあわただしい現代生活の中で、 たまには星空を見て地球の動きを感 じてほしいと思っています。

素材:コンパネ、木材、流木、アクリル板、 塗料、マット

場所:キングフィッシャーガーデン





関谷俊江

Toshie Sekiya (日本)

いつか大空へ

Flying Over ~ Someday, Somewhere

古着が虫の衣となって、森に陽気な 虫たちの誕生です。…いつか大空に 舞う日を夢みて。

素材:布、ビニール、他 場所:布佐市民の森

関口満子

Mitsuko Sekiguchi (日本)

ちょっとお洒落にティータイム

A little elegant tea time

秋の短い午後のひとときお洒落に テーブルを飾りお茶を楽しむをコン セプトにテーブル花を作りました。

素材:樹脂粘土、絵具 場所:美術展本部





和田叶一とゆずりは工房

Kanoichi Wada with Yuzuriha Studio (日本)

野に還る

Return

木野の里山の木に絡まった藤蔓を、 自然のままの形を利用して造形物を 作りました。

皆さんも形を作ってみませんか?部屋の一角に飾って頂ければ楽しくなると思います。

素材:蔓、自然木、竹 場所:宮の森公園

茂木康一

Koichi Mogi (日本)

レシピ

Recipe

硬いのか柔らかいのか。私はそれを知るために調理方法を考えていた。包丁やまな板はなかったが、測量器具やおもりがあった。美しい木々の間に置かれたこの"料理"は果たして美味なのだろうか。

素材:ステンレス、鉄 場所:布佐市民の森









加藤英之

Hideyuki Kato (日本)

草木染めで楽しむ フレスコボール

Let's enjoy Frescoball

美術展の会場に足を運ばれた皆様は "フレスコボール" というブラジル生 まれのビーチスポーツをご存知でしょうか。私はこのフレスコボールの魅力 にとりつかれラケットづくりを続けて きました。

今回の作品は12種類のラケットをそれぞれの葉や樹皮で染めました。個性を感じながら、多くの方にラリーを楽しんでもらいたいです。

素材:木材、木の葉 場所:布佐市民の森

兼田玲菜

Rena Kaneta (日本)

空槽森槽水槽

生きる環境は自分の意志で変えられる。 無限大の可能性を信じて歩む。

素材:布、傘、塗料、FRP 場所:布佐市民の森



21



布佐宝保育園

Fusa takara preschool (日本)

たからツリー

TAKARA-Tree

竹を組み合わせて作ったツリーに、子ども達が思いのままに作った作品 を飾ってみました。

素材: 竹、プラスチック 場所: 宮の森公園

藤村幸雄 アート型 ギャラリー

藤村幸雄

Yukio Fujimura (日本)

藤村幸雄 アートギャラリー

Yukio Fujimura Art Gallery

2回目の展覧会。16年の集大成。

素材: 画用紙、色鉛筆、鉛筆 場所: アコモード

及川真咲デザイン事務所 (林慎一郎+おいかわみちよし)

Oikawa Masaki Design Studio (Hayashi Shinichiro + Oikawa Michiyoshi) (日本)

ブレンド

BLEND

トランプさんとロケットマンさんをブレンドしてみました。憎しみからは何も生まれない——と痛切に思う、今日このごろです。

素材:ターポリン、MAC 場所:布佐市民の森



門倉光正

Mitsumasa Kadokura (日本)



The cocoon

全ての生物には生まれる前の時代が ある。

素材:竹、和紙 場所:宮の森公園





小山和則

Kazunori Koyama (日本)

「間」(ま)

between

広場にある見慣れた 2本の木の樹間 を利用しての作品です。樹木と樹木 との「間」、広場と背後の森との「間」、 そして天と地との「間」。 日本文化に 欠かせない「間」の重要性に注目します。

素材:竹 場所:布佐下多目的広場





石川美穂子

Mihoko Ishikawa (日本)

流

Flow

この美術展はとうとう20歳。第2回から参加しました私は、娘がもうすぐ20歳となり、沢山の時の流れを感じ、私も人生の節目の様な気がします。今回は今までの様々な作品、子供の成長、出会った方々を1人1人思い浮かべ、そんな時の流れを感じながらゆったりとした気持ちで制作しました。

素材:ゴザ 場所:布佐市民の森



江上弘

Hiroshi Egami (日本)

力の生

POWER OF LIFE

一本の木の枝や番線からでも強い力を感じることができる。その線は強い意志を持っている、自然の力を。かつて私たちも強く生きる力を持っていたに違いない。しかし、いま私たちは多くの問題を抱え、ストレスのある生活を送っている。もう一度、力を取り戻して欲しいと願う。

素材:なまし鉄線 場所:布佐市民の森

駒場拓也

Takuya Komaba (日本)

音を描くこと、絵を奏でること。

Painting Melodies, Listening to Paintings.

音を聴いて、イメージをする色や形。 奏でるように絵を描く。

このワークショップでは、言葉と同じ様に、音と絵でコミュニケーションを楽しみます。「自由に描いてください。」と話をすると、子供たちは工夫を凝らしてくれます。「ここをこうすれば良かった。ああすれば良かった。」と、終わった後も、気づいたことを色々と聞かせてくれました。

素材:音、絵の具、画用紙 場所:布佐小学校、キングフィッシャーガーデン









野村正義

Masayoshi Nomura (日本)

Solar

自然エネルギー万歳風景にもやさし

素材:和紙、墨、金箔、銀箔 場所:布佐市民の森



戸祭瑞香子とキッズアーティスト

Mikako Tomatsuri and Kids artists (日本)

魔女の箒達が集まる森

Witch-broom Forest

近年、竹箒でお掃除をしている光景 をあまり見かけなくなっています。子 供達が、竹箒に魅力を感じて、竹箒 を使う様になったらいいなと考え、幼 かった頃に、一度は試した魔女の空 飛ぶ箒を自分達でイメージして、装 飾してみました。

皆さんは、もし、本当に飛べたら、何 処に行きたいですか?夜になったら、 魔女の箒達は何を語り合うのでしょう か?あなたは、どの箒がお好みです

素材:ほうき、プラスチック、他 場所:布佐市民の森

鈴木 雅

Masashi Suzuki (日本)

青空もみほぐし

OPEN AIR RELAXATION

子供の頃毎年楽しくて遊びに来てい た野外美術展、何かお手伝いをした くて、青空の下でもみほぐしをしてみ たら、いつの間にか作品になってい た。何年か作品になっていたら、実 行委員長になっていた。

さて、次は何になるのだろうか?

素材:ミクストメディア 場所:布佐市民の森



Performance

大樹 (ギター) アートツアー

コラボレーション。

場所:旧石井ストアー

ライブパフォーマンス 千葉工業大学遠藤政樹研究室との

日時:10月21日(土)15:00~





オープニングセレモニー パフォーマンス

日時:10月21日(土)10:00~ 場所:旧井上家住宅



庄田次郎 (トランペット) 阪本テツ(サックス) ひだまなぶ (コントラバス) Naoto Vava (タブラ)

オープニングパーティー ライブパフォーマンス

日時:10月21日(土)18:30~ 場所:我孫子野外美術協会 事務所脇







加藤ひろえ(花生け)・坂入ヤスヒロ(コラ)

アートツアーパフォーマンス

日時: 10月29日(日)13:00~ 場所:布佐市民の森







舞踏派 ZERO♪・かつしか動物公園 ライブパフォーマンス WA・HA・HA!

日時: 11月3日(金)15:00~ 場所:布佐下多目的広場

Naoto Vava (サウンド ミュージック) Soluna (ダンス) Fukuko Ando (ドレスデザイン)

アートツアーパフォーマンス

日時:11月4日(日)16:00~ 場所:布佐市民の森



山車曳行パフォーマンス

日時:11月5日(日)13:00~







TROPICAL TREE ENSEMBLE

ライブパフォーマンス

日時:11月5日(日)17:00~ 場所:布佐市民の森



第 20 回記念 シンポジウム開催 「井上二郎と相島の森」

講師:石井英郎・岡本和男・江上弘





オープニングセレモニー

日時: 10月21日(土) 10:00~ 場所:旧井上家住宅



アートツアー

日時:10月21日(土)10:30~ 場所:旧井上家住宅スタート 日時:11月4日(土)10:30~ 場所:JR成田線布佐駅改札口前スタート



Work Shop



水田宗翠 (裏千家)

加藤ひろえ作品とのコラボレーション 11月5日(日) 布佐市民の森 芸術と文化のまちづくりに ご協力ありがとうございました

鈴木 龍太郎

2017 市民オーナー

浅沼 知明

須田 康二 秋田 清美 秋田 竜樹 関口 満子 関根 秀夫 芦崎 敬己 東 富子 関谷 聡太 我孫子市 部長会 関谷 俊江 我孫子市 次長会 芹澤 一夫 醍醐 文雄 我孫子市 課長会 我孫子市 六つ実会 高田 みどり 髙橋 一博 飯笹 智貴 池永 和正 滝沢 みつえ 石山 珠会 竹中 知子 井関 路子 武正 功一 井関 之雅 橘 昌子 立澤 幸雄 井上 美和子 井上 玲子 田中 賢悟 岩立 善吉 徳本 博文 戸澤 公男 上田 靖子 上田 義一 戸野倉 あゆみ 上林 依子 殿谷 敦史 上村 沙希 永井 登 宇田川 俊 永澤 達夫 中島 保則 内田 恭輔 江上 さくら 永妻 孝友 江上 由美子 中根 勝彦 江上 弘 中根 ケイ子 榎本 君子 成嶋 文夫 王 暁鳴 根本 きく江 嵩 萩原 誠経 小河原 周平 長谷川 陽子 奥山 和美 長谷山 絢子 小田島 由香里 初見 奈緒子 羽二生 隆宏 加藤 ひろえ 加藤 和子 樋口 幸正 樋田 恵美子 加藤 宏 加藤 眞司 日野 早紀子 加藤 マリ子 平井 和子 平野 善彦 香取 孝俊 兼田 玲菜 藤井 克之 神尾 和寿・博子 藤村 幸雄 木間 健人 船山 香代子 河上 尚義 Helen Walsh 河津 征司 (有) 北総ホームサービス 河津 美穂 星野 芳江 倉持 充 細川 裕子 本間 康平 栗原 祐子 小池 良子 マエノ マサキ 小泉 信幸 増田 恒雄 腰川 幸夫 松本 敦子 駒場 拓也 三浦 努 三木 道子 小山 和則 齊藤 さだむ 峯岸 幹男 斉藤 澄子 美濃 亜理彩 齊藤 多賀子 三山 純子 齊藤 登茂子 メディア・アンド・ コミュニケーションズ 斉藤 玲子 坂口 順造 茂木 康一 酒巻 孝 門馬 章 坂巻 雄二 矢吹 昌江 右近 多恵子 山口 久子 佐々木 正志 山田 智彦 山田 雅子 佐藤 朋子 佐藤 希 山中 千代 佐藤 信子 山根 雄二

佐藤 正美

佐藤 怜央

定直 彰子

篠原 博子

塩澤 誠一郎

渋谷 ゆり子

島村 惠津子

定直 彰子

鈴木 恭行

鈴木 綾乃

鈴木 奈津子

吉澤 扶志子

吉田 和賀子

吉藤 志津子

吉藤 敏男

吉藤 宣男

吉藤 典子 吉村 康史

Ri Eung Woo

和田 叶市

渡壁 麻里

吉田 龍